

第十三課

言葉の力

人ひとののためためへへる
歩あるくとと続つづく
道みちとと繰くりかえる
心こころののためためへへる
公こうののためためにに
自じ由ゆうととははららい
輝きらめくとと光ひかるく
輝きらめくとと光ひかるく



単語

背負う → 担う、負う

淡い：①色・味・香りなどが薄い。 ⇔濃い。「—・い水色」「—・い甘さ」②形や光などがぼんやりした状態だ。かすかである。ほのかである。「—・い雲」「街灯の—・い光」③関心や執着の度合が薄い。「—・い恋心」「—・い希望」④軽薄だ。軽々しい。

→浅い：①到達度が低い。十分な程度に達していない。「理解が—・い」「経験が—・い」②時間があまり経過していない。「知り合ってから日が—・い」「春はまだ—・い」③色が薄い。「—・い緑色」

素人 → 玄人

気安い：気が抜けない。心安い。 → 気楽

ゴツゴツ：①硬くて、でこぼこなどのあるさま。なめらかでないさま。「—（と）した岩」②荒つ

単語

ぽいさま。「ぶっきらぼうでーした人」

じょうき（上気・上記・蒸氣・常規）

揺らぐ：① ゆれ動く。基礎がぐらつく。「地震で家がー・ぐ」② 安泰でなくなる。危なくなる。

「業界トップの地位がー・ぐ」

→ 摆れる：① ある点を中心として前後、左右、上下などに動く。「木の枝がー・れる」「船がー・れる」「ぶらんこがー・れる」②（本来一定しているはずのものが）一定しない状態にある。「判断の基準がー・れる」

→ ぐらつく：① しっかりしているはずのものがぐらぐらする。「机がー・く」「歯がー・く」② 決心・結論に確信がもてず動搖する。「親の反対で決心がー・く」

単語

→ 摆らめく：ゆらゆらする。

最上 → 上級、高級

エッセンス → 真髓

雨中 → 宇宙

引きずる：①床や地面に触れたままで物を引っぱって行く。「荷物を一・って運ぶ」②長く垂れ下

がって床や地面をこするようにする。「着物のすそを一・って歩く」③無理に引っ張る。「泣く

子を一・って帰る」④だらだらと長びかせる。「まだ風邪を一・っている」「審議を一・る」⑤

(受け身の形で)影響される。しようと思わないのに、ついそうさせられる。「先行学説に一・られる」

文型

1.っぽい (N2)

接尾語「～っぽい」はいろいろな語について、「～の傾向が強い」「～の要素が多い」という意味を表す形容詞を作る。意味的には、主に、①「本来はそうあってはいけないのに～だ」という悪い評価と②そのとき、その場の外見からの印象を表す。

例：安っぽい、白っぽい、熱っぽい、忘れっぽい

2.～づく

接尾語であり、意味的には、①そのような状態になる、そういう様子が強くなる意を表す。

例：「秋一・く」「調子一・く」

②そういう事が頻繁に起こる、しょっちゅうそういう状態になるの意を表す。「お客様一・いてい

文型

る」

精読

1. 言葉の本質はどこにあるのか。
2. 「言葉の一語一語は、桜の花びら一枚一枚だと言つていい」と作者は言っているが、あなたはそれをどう理解しているのか。
3. 言葉の力はどういうことなのか、また、あなたはそれをどう理解しているのか。
4. 美しい言葉や正しい言葉というのは、一体どのような言葉なのか。